

中小企業景況調査報告書

令和7年 4 ～ 6月期 実績
令和7年 7 ～ 9月期 見通し

鹿児島県商工会連合会

(令和7年7月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	--	--

- 調査対象期間 令和7年4～6月期を対象とし、調査時点は令和7年6月1日とした。
令和7年7～9月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 かごしま市・南九州市・薩摩川内市・長島町・伊佐市・姶良市・霧島市
志布志市・大崎町・垂水市・東串良町・西之表市・龍郷町・徳之島町
- 回答企業 対象企業 209 企業
製造業：42 企業 建設業：30 企業 小売業：61 企業 サービス業：76 企業

県内産業別業況DI

	製造業	建設業	小売業	サービス業
6年 4 月 ～ 6 月 期	 ▲9.1	 7.2	 ▲27.6	 ▲2.5
6年 7 月 ～ 9 月 期	 ▲16.7	 ▲7.4	 ▲19.0	 ▲19.5
6年 10 月 ～ 12 月 期	 ▲9.3	 11.1	 ▲25.9	 ▲11.5
7年 1 月 ～ 3 月 期	 ▲18.6	 10.4	 ▲13.8	 ▲26.0
7年 4 月 ～ 6 月 期	 ▲12.5	 16.6	 ▲23.3	 ▲22.4
来期見通し(7～9月期)	 ▲7.4	 3.4	 ▲25.0	 ▲14.7

総 合（業況）

前年同期（令和6年4月～6月期）と比較した今期（令和7年4月～6月期）の業況は、製造業▲12.5（前年同期比3.4ポイント悪化）、建設業16.6（前年同期比9.4ポイント改善）、小売業▲23.3（前年同期比4.3ポイント改善）、サービス業▲22.4（前年同期比19.9ポイント悪化）となった。

また前期（令和7年1月～3月期）と比較すると、製造業6.1ポイント改善、建設業6.2ポイント改善、小売業9.5ポイント悪化、サービス業3.6ポイント改善となった。今期については、原材料の価格高騰や従業員不足に加え、米の品薄や価格高騰で小売業・飲食店を中心に個人消費にも影響も出始めており、今後は、米の価格にも左右されると考える。

なお、来期（令和7年7月～9月期）の見通し（DI）は、今期と比較すると、建設業13.2ポイント、小売業1.7ポイント悪化の見通しとなるものの、製造業5.1ポイント改善、サービス業は7.7ポイント改善の見通しとなる。原材料の価格高騰は続き、酒造製造業においては、特に若者の焼酎離れで消費低迷による製造減。建設業においては、公共工事の受注減。小売業は、7月からの食品の値上げによる消費者の買い控え等、さまざまな要因が需要の停滞をもたらし、引き続き中小企業・小規模事業者において利益の確保が厳しい状況が続くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 42 企業

調査対象企業内訳：食料品(20)、飲料・飼料・たばこ(7)、繊維工業(1)、衣類・その他繊維製品(1)、一般機械器具(2)、家具・装備品(1)、木材・木製品(1)、プラスチック製品(1)、印刷・同関連(3)、金属製品(2)、窯業・土石製品(1)、その他(2)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 4 月 ～ 6 月期		▲13.7		▲22.7		▲6.8		▲9.1
6 年 7 月 ～ 9 月期		▲19.0		▲45.2		▲11.9		▲16.7
6 年 10 月 ～12 月期		18.6		▲23.2		▲4.7		▲9.3
7 年 1 月 ～ 3 月期		2.3		▲23.3		▲11.9		▲18.6
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲2.4		▲31.0		▲2.4		▲12.5
来期見通し 7～9 月期)		▲4.8		▲19.1		▲4.9		▲7.4

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・ 自社で生産する原料芋を収穫するまでの管理について、基腐病及び猪等の獣被害は、原材料費の高騰に直結する。原料米や資材等の値上げが相次いでいる。(蒸留酒製造業)
- ・ T S M C の進出に対して、大手国内企業の動きが遅すぎた。新工場建設後の稼働も未定になっており、その下請けとなっている地元中小零細企業には注文が流れてこない。(金属加工機械用部分品製造業)
- ・ 原料価格高騰が止まらない。銀行の引き締めが厳しい。(食酢製造業)

経営上の問題点

第 1 位	原材料価格の上昇	54.1%	(前期比	+16.6)
第 2 位	需要の停滞	10.8%	(前期比	-6.7)
第 3 位	生産設備の不足・老朽化	8.1%	(前期比	+0.6)

【建設業】 有効回答数 30 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(22)、職別工事業(4)、設備工事業(4)

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 4 月 ～ 6 月期		3.6		▲3.6		0.0		7.2
6 年 7 月 ～ 9 月期		14.8		3.7		▲3.7		▲7.4
6 年 10 月 ～12 月期		25.9		▲3.7		7.4		11.1
7 年 1 月 ～ 3 月期		17.2		▲20.7		6.9		10.4
7 年 4 月 ～ 6 月期		24.2		▲10.3		10.0		16.6
来期見通し 7～9 月期)		6.7		▲10.0		▲6.6		3.4

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・ 資機材価格の高騰や人件費の上昇等により実質的な公共事業量は減少している。中長期的な安定した事業量確保が望ましいが当初予算等に反映されていないのではないか。(一般土木建築業)
- ・ 資材価格の全体的な高騰による住宅価格上昇や景気の先行き不透明感が影響して新設住宅着工数の減少。又、ハウスメーカー等依頼増加し、地元建築業者の請負件数等の減少。(一般電気工事業)
- ・ 需要が減れば供給価格は下がるものだが一向に下がらず消費意欲の低下が感じられる。材料高の影響で鉄骨造りから木造にシフトするなどの会社も見受けられるが、当社のような木造主体の工務店はチャンスである。(一般土木建築工事業)

経営上の問題点

第 1 位	材料価格の上昇	46.4%	(前期比	+28.5)
第 2 位	従業員の確保難	17.9%	(前期比	-7.1)
第 3 位	官公需要の停滞	10.7%	(前期比	0.0)

【小売業】 有効回答数 61 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(29)、各種商品(6)、織物・衣服・身の回り品(6)、家具・建具(3)、
自動車・自転車小売業(1)、その他(16)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 4 月 ～ 6 月期		▲27.6		▲34.5		▲22.4		▲27.6
6 年 7 月 ～ 9 月期		▲25.9		▲31.0		▲14.1		▲19.0
6 年 10 月 ～12 月期		▲28.1		▲35.1		▲21.4		▲25.9
7 年 1 月 ～ 3 月期		▲20.7		▲24.1		▲10.4		▲13.8
7 年 4 月 ～6 月期		▲16.4		▲30.0		▲14.7		▲23.3
来期見通し 7～9 月期)		▲13.1		▲30.0		▲9.9		▲25.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・仕入価格の高騰と、過疎化・高齢化の影響で業績は低水準で移行している。消費税一律 0% やガソリン税の廃止などの政策に期待したいところ。
(ガソリンスタンド)
- ・仕入単価の上昇に伴い、販売価格を上昇し、今のところ商品は動いているが、当社商品が土産品という性質上、いわゆる娯楽品に分類されるため価格の上昇には限度を感じ、今後の動向に不安を感じている。
(その他に属さない小売業)
- ・物価高による消費者の買い控え。贅沢品（単価の高いもの）が売れない。
(各種食料品小売業)

経営上の問題点

第 1 位 仕入単価の上昇	25.9% (前期比	－11.4)
第 2 位 人件費以外の経費の増加	14.8% (前期比	＋12.8)
第 3 位 需要の停滞	11.1% (前期比	－4.6)

【サービス業】 有効回答数 76 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(18)、飲食店 (23)、自動車整備業(12)、宿泊業(8)、
運送業 (1)、その他 (14)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 4 月 ～ 6 月期		0.0		▲25.7		▲7.7		▲2.5
6 年 7 月 ～ 9 月期		5.2		▲27.3		▲14.3		▲19.5
6 年 10 月 ～12 月期		1.3		▲24.4		▲11.7		▲11.5
7 年 1 月 ～ 3 月期		▲16.9		▲32.5		▲18.5		▲26.0
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲17.3		▲26.3		▲14.7		▲22.4
来期見通し 7～9 月期)		▲11.8		▲22.4		▲20.0		▲14.7

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・インバウンドが見込めるのは、観光地と都市部に集中し地方には影響はない。しかし、食材等の経費は増加し値上げが必要の中、いつまで外食を気軽にできるのか。外食産業は厳しい状況になると思う。
(食堂・レストラン業)
- ・航空インフラの拡充が必要であると考え。また、島全体として観光の誘客に取り組む必要があると考え。
(簡易宿所)
- ・従業員の確保が難しい。できる限りの範囲で対応しているが、営業できる日程でお客様に来てもらう等、ギリギリの範囲で営業している。
(理容業)

経営上の問題点

第 1 位 材料等仕入単価の上昇	37.5% (前期比	－0.5)
第 2 位 需要の停滞	14.1% (前期比	－4.2)
第 3 位 利用者ニーズの変化	9.4% (前期比	＋3.8)
第 3 位 店舗施設の狭隘・老朽化	9.4% (前期比	－0.5)

全産業【鹿児島県】

令和7年4期～6月期

全産業

鹿児島県

2025年4月～6月期

	企業数	今期（前年同期比）				企業数	来期（対前年同期比来期見通し）			
		↗	→	↘	D I		↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	207	24.6	42.5	32.9	-8.2	209	20.6	50.7	28.7	-8.1
売上（加工）単価・客単価	178	27.0	59.6	13.5	13.5	178	21.9	61.2	16.9	5.1
売上（加工）数量	42	21.4	52.4	26.2	-4.8	42	16.7	52.4	31.0	-14.3
客数	61	18.0	45.9	36.1	-18.0	61	13.1	54.1	32.8	-19.7
利用客数	76	17.1	44.7	38.2	-21.1	76	14.5	56.6	28.9	-14.5
資金繰り	207	9.7	72.0	18.4	-8.7	207	7.2	73.4	19.3	-12.1
輸出額	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	16	0.0	81.3	18.8	-18.8
受注（新規契約工事）額	29	24.1	62.1	13.8	10.3	30	23.3	63.3	13.3	10.0
原材料・商品等仕入れ単価	209	78.5	20.1	1.4	77.0	209	68.4	29.7	1.9	66.5
原材料在庫数量	42	14.3	61.9	23.8	-9.5	42	9.5	71.4	19.0	-9.5
商品仕入数量	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
商品仕入額	61	68.9	14.8	16.4	52.5	61	67.2	19.7	13.1	54.1
商品・商品在庫数量	99	11.1	69.7	19.2	-8.1	100	8.0	72.0	20.0	-12.0
採算（経常利益）	207	11.6	50.7	37.7	-26.1	208	10.1	57.7	32.2	-22.1
従業員（含臨時・パート）	175	8.0	84.0	8.0	0.0	174	4.0	70.1	4.6	-0.6
外部人材（請負・派遣）	86	7.0	89.5	3.5	3.5	93	6.5	90.3	3.2	3.2
設備操業率	41	12.2	65.9	22.0	-9.8	42	9.5	73.8	16.7	-7.1
引合	62	17.7	66.1	16.1	1.6					0.0
受注・契約残	64	10.9	71.9	17.2	-6.3					0.0
業況（自社）	206	12.6	59.7	27.7	-15.0	206	11.7	63.1	25.2	-13.6

	企業数	今期（前期比）				企業数	来期（対当期比見通し）			
		↗	→	↘	D I		↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	207	25.6	42.5	31.9	-6.3					
売上（加工）単価・客単価	178	24.7	60.7	14.6	10.1					
売上（加工）数量	42	28.6	50.0	21.4	7.1					
客数	61	18.0	44.3	37.7	-19.7					
利用客数	76	15.8	56.6	27.6	-11.8					
資金繰り	206	9.2	72.8	18.0	-8.7					
業況（自社）	205	12.7	65.4	22.0	-9.3	206	12.1	64.6	23.3	-11.2
受取手形期間	35	0.0	94.3	5.7	-5.7	36	0.0	91.7	8.3	-8.3
長期資金借入難度	158	5.1	87.3	7.6	-2.5	160	5.6	86.3	8.1	-2.5
短期資金借入難度（含手形割引）	128	6.3	89.1	4.7	1.6	132	5.3	89.4	5.3	0.0
借入金利	156	21.2	78.2	0.6	20.5	157	20.4	78.3	1.3	19.1

	企業数	今期の水準			
		↗	→	↘	D I
業況（自社）	209	11.5	56.5	32.1	-20.6
生産に対する原材料在庫	41	4.9	82.9	12.2	-7.3
売上に対する製品在庫	101	12.9	80.2	6.9	5.9
採算（経常利益）	209	22.5	62.2	15.3	7.2
引き合い	65	15.4	61.5	23.1	-7.7
生産設備	42	0.0	85.7	14.3	-14.3
従業員（含臨時・パート）	186	0.0	80.6	19.4	-19.4

上2表

↗：増加・上昇・好転・長期化・容易
→：不変
↘：不足・低下・悪化・短期化・困難

左表

↗：良い・過剰・黒字・活発
→：ふつう・適正・収支トントン・ふつう
↘：悪い・不足・赤字・低調

産業別 過去3年間の業況DI（前年同期比）の推移
（2022年7～9月期～2025年4～6月期）

